

旧東海道 戸塚宿

旧東海道戸塚宿の歴史を歩く散策マップ

■清源院



浄土宗のお寺で、徳川家康の側室お万の方ゆかりの寺です。本尊は徳川家康から拝領した函吹阿弥陀如来で、境内には松尾芭蕉の句碑、心中句碑があり、墓地最上部にお万の方の遺骸火葬跡の碑があります。また鎌倉郡三十三観音二十二番札所であり、千手観音が祀られています。

■善了寺



天福元（1233）年江戸麻布善福寺の釈つ海の弟子「釈つ全」が浄土真宗のお寺として開山したそうです。本堂の前には親鸞聖人像が建っています。本尊は蓮如作と伝えられる阿弥陀如来です。

■江戸方見付跡



見付とは、宿場の出入り口のことです。ここは戸塚宿の江戸側の出入り口です。旧東海道の宿場に設けられた見付は、宿場を見渡しやすくなる施設となっていることが多々あります。参勤交代の大名らを、宿役人がここで出迎えました。

■鎌倉ハムの発祥の地




明治10年頃に英国人のカーチスが柏尾村に外国人専用のホテルを建て、宿泊客に供するハムを作ったのが始まりと言われています。明治20年頃に地元の高藤満平等がカーチスからハムの製造法を学び、ハムの製造を始めました。煉瓦造りの建物は大正7（1918）年に建造され、2階はハムの仕込み室でした。

■大山前不動




江戸時代の大山詣での、大山道入口です。御堂には正徳3（1713）年建立の不動明王像が祀られています。お堂の前には「従是大山道」と刻まれた道標や、庚申塔などがあります。

■大橋



歌川広重の「東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道」に描かれている戸塚宿を代表する場所の一つです。当時は長さ10間（18.2m）、幅2間半（4.6m）の板橋でした。現在の橋は昭和61（1986）年に架け替えられたもので、両側に大名行列が持つ毛槍（けやり）を模した街灯が建っています。

■妙秀寺



日蓮宗のお寺で本尊は釈迦如来です。境内には戸塚の浮世絵歌川広重の「東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道」に描かれている大橋の脇の延宝年間（1673～1681年）の「かまくら道」道標が移されています。

■宝蔵院



真言宗のお寺で天文16（1547）年に阿闍梨朝興法印が東峰山光園寺として中興し、本堂を宝蔵院と称しその後は現在の大木に馬を繋いだという言い伝えがあります。本尊は不動明王で境内には地藏堂、日本舞踊芸道精進の扇塚などの石造物があります。

■護良親王の首洗い井戸



この地に伝わる言い伝えでは、鎌倉で弑された親王の御首を側女が夜中に盗み取ってこれを奉じ、当地の豪族斎藤氏に救いを求めて難を逃れ、この井戸で御首を洗い清めたとされています。

■王子神社



祭神は大塔宮護良親王です。親王の首級が本殿下に葬られたと伝えられています。護良親王は後醍醐天皇の皇子で仏門に入り天台座主となりましたが還俗し、父後醍醐天皇の鎌倉幕府打倒に尽しましたが、鎌倉に幽閉され足利直義の命令により弑されました。

■東郷八幡



東郷八幡の境内には、歴史的な小径の入口の目印が記されています。

■品濃坂



品濃坂は、朝早く江戸を立ち、日暮れまでに戸塚宿へと向かう旅人には宿場町までもう一歩の所です。一方、江戸方面へ向かう人にとっては最後の急な登り坂で、この難所を越えれば鏡木の立場までと一息でした。海も見えてきて、江戸へ想いを馳せていたかもしれません。写真は明治初期の品濃坂です。

■品濃一里塚



江戸から数えて九番目の一里塚です。神奈川県内では、ほぼ完全な形で残る唯一の一里塚で、県の指定史跡となっています。旧東海道を走ると、道の両側に二つの塚があり、品濃側（西側）には昔大きな榎が植えられていたそうです。現在は品濃側（西側）、平戸側（東側）共に、塚とその周辺が公園として整備されています。

■焼餅坂



焼餅坂は当時の品濃村と平戸村の境にあり、一町半（約160m）の坂道でした。坂の傍の茶店で、焼餅を焼いていたので焼餅坂と名付けられたといわれています。別名牡丹餅坂（ぼたもちさか）とも呼ばれています。戸塚を描いた浮世絵には山坂や焼餅の絵がしばしば登場します。

■萩原代官屋敷・道場跡



現在も武家門の残る萩原家は代々旗本杉浦氏の代官を務める家でした。幕末から明治初期へかけての萩原家当主萩原行篤は直心影流の免許皆伝の剣士でこの地で道場を開きました。安政5（1858）年には道場へ新撰組の近藤勇も訪れ刺客名簿にその名を残しています。

■大橋



歌川広重の「東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道」に描かれている戸塚宿を代表する場所の一つです。当時は長さ10間（18.2m）、幅2間半（4.6m）の板橋でした。現在の橋は昭和61（1986）年に架け替えられたもので、両側に大名行列が持つ毛槍（けやり）を模した街灯が建っています。

■妙秀寺



日蓮宗のお寺で本尊は釈迦如来です。境内には戸塚の浮世絵歌川広重の「東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道」に描かれている大橋の脇の延宝年間（1673～1681年）の「かまくら道」道標が移されています。

旧東海道戸塚宿

戸塚宿の成立は、慶長9（1604）年で、隣宿である藤沢、保土ヶ谷の宿が成立した慶長6（1601）年に遅れること3年でした。日本橋から数えて5番目の宿場町で、基点の日本橋からは10里半（約42km）の距離にあり、朝江戸を発った当時の旅人の一番目の宿泊地として最適であり、さらに鎌倉への遊山の道、大山参詣の道の分岐の宿として大変な賑わいを見せていました。東海道宿村大概観【天保14（1843）年頃】によると、宿内の人口は2,900人余、家数は613軒、本陣は2、脇本陣は3、旅籠は75軒と東海道五十三次の宿場の中では10番目に宿泊施設の多い宿場でした。戸塚区内では旧東海道は南北方向にまたがっており、全長約11.7kmあります。その中で戸塚宿は、2つの見付跡に挟まれた約2.3kmの範囲とされており、今も戸塚区の中心地として賑わっています。



東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道 初代広重 天保4-5年 (1833-1834) 年頃

旧東海道戸塚宿の主要な場所と所要時間等

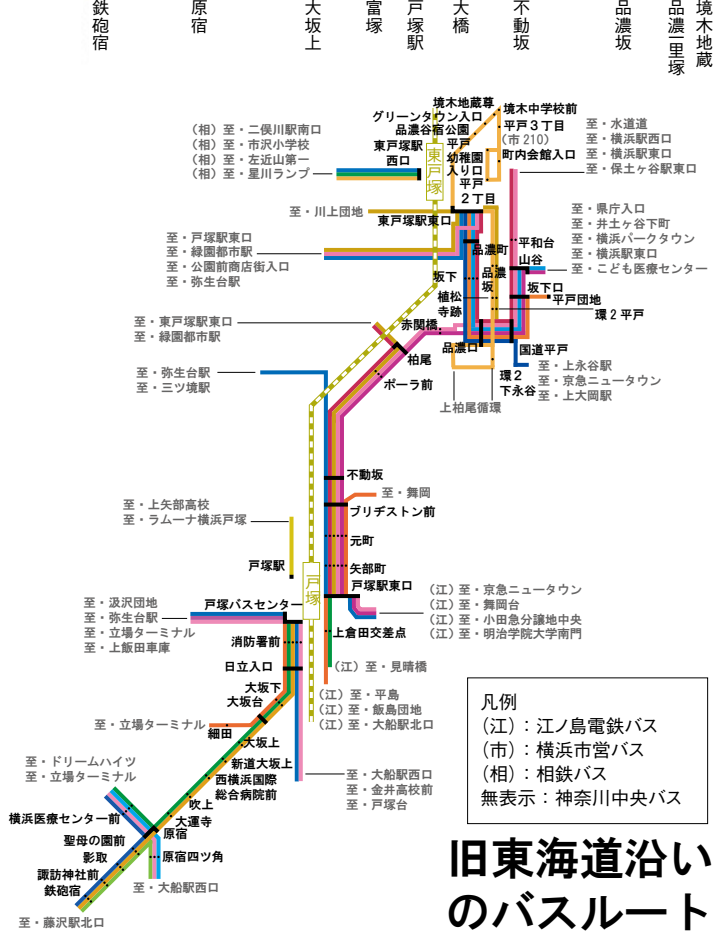
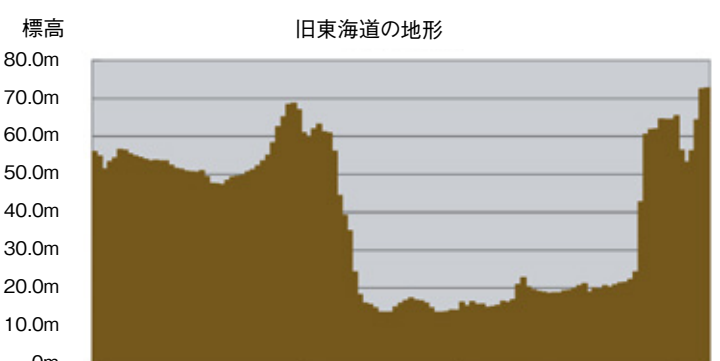
鉄道宿	3.0 km	原宿一里塚	1.1 km	大坂上	2.1 km	戸塚駅	0.8 km	大橋	1.2 km	不動坂	2.3 km	品濃坂	0.7 km	品濃一里塚	0.5 km	境木地藏
約50分	約20分	約30分	約10分	約20分	約30分	約10分	約10分	約50分	約20分	約30分	約10分	約10分	約10分	約10分	約10分	

■旧東海道ルート
■その他の主な散策ルート
■歴史資源の説明 【戸塚宿内（江戸方見付跡～上方見付跡）】
■歴史資源の説明
■利用可能なトイレ ※ただし、曜日によっては施錠されたり、施設所有者の許可を得る必要のあるトイレもあります。
■だれでもトイレ
■交番・警察署
■バス停
■公園
■樹林地等
■農地
■川・水
■寺社
■学校等
■主要な公共施設
■戸塚宿周辺散策案内図
■道案内板 ※旧東海道ルートの分岐点や迷いやすい場所に立っていますので現地でもルートを確認下さい。
■歴史案内板
■歴史案内角柱
■方向案内板
■誘導サイン
SCALE 1/10,000
0 100 200 500m

道中の高低差が大きい戸塚宿

戸塚宿一帯は、近傍の旧東海道の宿場町と比べて、地形比高差の大きい宿場町とされており、東海道五十三次などの絵図において、権太坂上の境木立場や坂越えの様子、坂越え後の休憩している様子などが描かれています。

下図は旧東海道沿いの主な場所の標高を示したのですが、品濃坂や大坂では比高差が約 40m近くあることがわかります。その中で戸塚宿の中心部である吉田の大橋〜冨塚八幡宮間は低い谷の部分に存在していました。



旧東海道沿いのバスルート

旧東海道戸塚宿の歴史を歩く散策マップ
平成 21 年 5 月発行 令和 3 年 3 月一部改訂
発行：横浜市戸塚区役所 総務部政推進課 企画調整係
〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町 16-17
電話 045(866)8326 / FAX 045(862)3054
編集協力：戸塚見知会 建物イラスト：西牧秀雄
制作：株式会社総合計画研究所

- 旧東海道ルート
- その他の主な散策ルート
- 歴史資源の説明【戸塚宿内(江戸方見付跡~上方見付跡)】
- 歴史資源の説明
- 利用可能なトイレ ※ただし、曜日によっては施設されたり、施設所有者の許可を得る必要のあるトイレもあります。
- だれでもトイレ
- 交番/警察署
- バス停



■諏訪神社

創建年代は不詳ですが明治40(1907)年に山谷仲町からこの辺りに移転し出来た神社で、周辺が鉄砲宿と呼ばれていた事から武神の諏訪神社を勧請したと言われています。
影取の地名の由来となった影取池は、この神社の奥にあったと伝えられています。

- 公園
- 樹林地等
- 農地
- 川・水
- 寺社
- 学校等
- 主要な公共施設
- 戸塚宿周辺散策案内図
- 誘導サイン



さあ、歩きましょう

自分が「ややきつい」と感じる強さで運動することで安全に持久力を向上させることができます。無理に「きつい」と感じるような強い運動をする必要はありません。
次のような「ややきつい」感じ始めてみましょう。
①いつも歩いているより早めに
②ちょっと息が弾むが、笑顔を保てる
③長時間運動を続けられるが少し不安を感じる
④5分程度で汗ばんでくる
⑤10分程度運動すると、すぐに軽い筋肉痛を感じる
※これから運動を始める方は「かなり楽である」と感じる強さから開始しましょう。
※慣れてきたら、少しずつ強度を上げ「ややきつい」強さでの運動を目指しましょう。
※出典「頂上ウォーキング」(平成 21 年 3 月) / 横浜健康福祉局 高齢在宅支援課

■大運寺

浄土宗のお寺で、慶長元(1596)年に創建されました。
本尊は阿弥陀如来です。境内にはかつて観音堂、庚申堂がありました。また境内にあった弘法池は、今は大正団地内にあり、池の中の窟にあった弘法大師作といわれる石地蔵は現在本堂に移され、その複製品が窟に祀られています。

■浅間神社

室町時代の永禄年間(1558~1570)年にその頃盛んであった富士信仰をもとに村内安全を祈願するために勧請されたと言われています。境内には樹齢 600 年を超えると言われる多くの椎の木があり、西には遠く富士山や箱根連山を見ることが出来ます。

■第六天社

古事記・日本書紀で第六番目に出現したとされる面足命・權根命が祭神です。境内には産魂祠天保 10(1839)年と道路に面した藤行翁之碑安政元(1854)年があります。近傍の道端に延宝 5(1677)年から寛保 3(1743)年に建てられた 7 基の庚申塔が並んでいます。

■冨塚八幡宮

戸塚宿の総鎮守で祭神は豊田別命(応神天皇)と冨彦彦命の二柱です。
源頼義・義家父子がここに野営し夢で応神天皇の神託を受け戦に勝利したことに感謝し延久 4(1072)年に社殿を造りその御堂を勧請したとされています。山頂の古墳は冨彦彦命の墳墓とされており、「冨塚」と呼ばれ、これが「戸塚」の地名の起りとも言われています。境内には松尾芭蕉の句碑もあります。

■八坂神社

通称「お天王さま」として親しまれている戸塚宿の鎮守です。元亀 3(1572)年に、牛頭天王社を勧請したのが始まりと言われています。毎年 7 月 14 日に行われる「おれまき」は、無病息災を祈願して市の指定無形文化財になっています。
神社脇の東海道と鎌倉道が交差するあたりに高札場がありました。

■澤邊本陣跡・羽黒神社

澤邊本陣は戸塚宿に二つあった本陣のうちの一つです。本陣創設時の当主、澤邊宗三は戸塚宿の開発にあたりが始めると言われています。明治天皇の東下の際には行在所になりました。
敷地の一角に戸塚宿の鎮守の一つ羽黒神社があります。弘治 2(1556)年に澤邊河内守信友が羽黒大権現を勧請したのが始まりと言われています。

■高松寺

臨済宗のお寺で、本尊は観世音菩薩です。山門は鐘樓門で、本堂の天井には竜が描かれています。山頂には開基高松三郎の土墳墓と伝える塚があります。境内には茶室や像をなでることが出来るという「なで仏」(おびんする様)と富士塚から移された富士講所があります。また鎌倉三十三観音二十二番札所であり、千手観音が祀られています。

■清源院

浄土宗のお寺で、徳川家康の側室お万の方ゆかりの寺です。本尊は徳川家康から拝領した盧吹阿弥陀如来の遺骸火葬跡の碑があります。

■上方見付跡

江戸方見付から、約 2.2 km の距離にある戸塚宿京方の出入口です。現在は道の両側に 1.5m ほどの石の囲いがあり、昔と同じように京に向かって左に松の木、右に樅の木が植えられています。ここから京方は数々の浮世絵の背景に登場する長大な大坂の上りが続いています。

■親縁寺

区内唯一の時宗の寺で、元応元年(1319)年に遊行寺の香海上人が開いたとされています。もとは大坂下にありましたが、明和年間(1764~1772)年に現在地に移りました。
境内には地藏堂、熊野権現社、庚申塔があります。徳場時代、当山の鐘は「戸塚十勝」の一つに選ばれ、宿場中に親しまれていました。

■海蔵院

臨済宗円覚寺の末寺、貞治 2(1363)年の創設。本尊は釈迦牟尼如来。山門には龍の彫刻、戸塚の俳人長坂志行の墓(塾生たちの謝恩の建碑)があります。徳場時代、当山の鐘は「戸塚十勝」の一つに選ばれ、宿場中に親しまれていました。

■問屋場跡

問屋場とは宿駅馬制度の要となる施設で、公用旅行者や大名などの荷物の運搬、継ぎ立て、人足や伝馬の確認、駄賃の授受などをする役所です。
戸塚宿には矢部、吉田、戸塚 3ヶ所の問屋場があり、毎月 1 日から 4 日は矢部が、5 日から 11 日は吉田が、12 日から毎月までは戸塚が担当していました。

■善了寺

天福元(1233)年江戸麻布善福寺の釈了海の弟子「釈了全」が浄土真宗のお寺として開山したそうです。本堂の前には親鸞聖人像が建てられています。本尊は蓮如作と伝えられる阿弥陀如来です。

■原宿一里塚跡

江戸より十一番目の一里塚で、吹上の一里塚とも言われています。当時は松の木が植えられていました。
明治 9(1876)年に里程標の杭をたてるとき、一里塚は不要となったので取り払われました。

■お軽勤平「戸塚山中道行」の碑

『歌舞伎仮名手本忠臣蔵』のお軽勤平の「戸塚道行の場」に因って作られたものです。
七代目市川團十郎・三代目尾上菊五郎などの名優の演技と清元の名調子から、当時江戸では大変な評判でした。

■お軽勤平「戸塚山中道行」の碑

『歌舞伎仮名手本忠臣蔵』のお軽勤平の「戸塚道行の場」に因って作られたものです。
七代目市川團十郎・三代目尾上菊五郎などの名優の演技と清元の名調子から、当時江戸では大変な評判でした。

■お軽勤平「戸塚山中道行」の碑

『歌舞伎仮名手本忠臣蔵』のお軽勤平の「戸塚道行の場」に因って作られたものです。
七代目市川團十郎・三代目尾上菊五郎などの名優の演技と清元の名調子から、当時江戸では大変な評判でした。